

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成19年度 内閣総理大臣賞 受賞	受賞者名	セイコーエプソン株式会社																						
	所在地	長野県諏訪市																						
	受賞テーマ	セイコーエプソングループにおけるゼロエミッション活動の推進																						
	<p>1. 活動継続 あり</p> <p>グループ拠点でのゼロエミッション活動は継続しており、グローバルでの 2015 年度の実績では排出量を 2006 年度比で 33%削減している。（削減量：約 1.4 万トン）</p>																							
<p>● 排出物*1排出量 (単位:千t)</p> <table border="1"> <caption>排出物*1排出量 (単位:千t)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>排出物*1排出量 (千t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2006</td><td>42.4</td></tr> <tr><td>2007</td><td>40.9</td></tr> <tr><td>2008</td><td>35.4</td></tr> <tr><td>2009</td><td>32.5</td></tr> <tr><td>2010</td><td>32.4</td></tr> <tr><td>2011</td><td>28.9</td></tr> <tr><td>2012</td><td>26.1</td></tr> <tr><td>2013</td><td>26.1</td></tr> <tr><td>2014</td><td>30.3</td></tr> <tr><td>2015</td><td>28.4</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 事業所内で不要となり社外に排出するもの</p>		年度	排出物*1排出量 (千t)	2006	42.4	2007	40.9	2008	35.4	2009	32.5	2010	32.4	2011	28.9	2012	26.1	2013	26.1	2014	30.3	2015	28.4	<p>2. 活動の広がり あり</p> <p>排出物自体の発生抑制と、より高次元の再資源化を目指すゼロエミッション「レベル 2」を継続推進している。イギリス中西部のシュロップシャー州に拠点を置く製造法人では、「埋立てゴミゼロ」を達成。</p> <p>http://www.epson.jp/SR/topics/201301_1.htm</p>
年度	排出物*1排出量 (千t)																							
2006	42.4																							
2007	40.9																							
2008	35.4																							
2009	32.5																							
2010	32.4																							
2011	28.9																							
2012	26.1																							
2013	26.1																							
2014	30.3																							
2015	28.4																							
<p>3. 活動の進化 あり</p> <p>上記「活動の継続」に加えて、商品・サービスによる環境負荷低減を目指し、商品の小型化・軽量化、消耗品や商品の梱包材の最小化、不要印刷を最小化する新たな印刷機能など、お客様の商品使用時に発生する廃棄物を最小化する商品設計にも注力している。</p>		<p>消耗品の地球温暖化負荷比較 (CO₂換算)</p> <p>大容量インクパックシステム 搭載プリンター</p>																						
<p>4. 今後の計画</p> <p>お客様のもとで発生する環境負荷を劇的に低減する革新的な商品やサービスの提供を進めることにより、地球全体の環境負荷の低減に貢献することを目指す。</p>																								
<p>5. その他</p> <p>活動の詳細については、弊社 HP をご参照ください。</p> <p>http://www.epson.jp/SR/</p>																								

【表彰概要】

概 要

受賞者名	セイコーエプソン株式会社
所在地	長野県諏訪市
テーマ	セイコーエプソングループにおけるゼロエミッション活動の推進

- ・1997年より同社では、国内外の関係企業等も含めたグループ全体にわたる大規模なゼロエミッション活動を実施している。同社のゼロエミッション活動は、事業活動から発生する排出物を100%再資源化する「レベル1」、並びに排出物自体の発生抑制とより高次元の再資源化を目指す「レベル2」の2段階に設定されている。
- ・ゼロエミッションレベル1の定義としては「排出物の100%再資源化」、「生活系廃棄物(可燃ごみ)50g/日・人以下」を定め、2003年度末までに全ての国内事業所、国内関係会社、海外関係会社が達成しており、さらに、その後グループに加わった拠点・法人に対しても水平展開を行い、順次達成している。
- ・また、ゼロエミッションレベル2の定義としては、「循環型リサイクルを増やす」、「ゼロエミレベル1活動の維持」、「排出物処理のコスト削減」を定めており、2006年度末までに7法人(国内2、海外5)が達成している。
- ・これらの取り組みの結果、グループ全体で以下のような実績・効果を挙げている。

<排出量の削減>

	2006(一部2005)年度 における削減量※
国内	1,881 t
海外	1,663 t

※2002年度を基準年に、ゼロエミッションレベル2の実施により削減された量。生産高の変動等による自然増減は含まない。

<リサイクル量の推移>

	1997年度	2000年度	2006年度
国内	5,050 t (排出量全体の36%)	14,484 t (排出量全体の85%)	23,412 t (排出量全体の98%)
海外	4,441 t (排出量全体の34%)	16,863 t (排出量全体の75%)	16,659 t (排出量全体の89%)

<コスト削減効果>

	ゼロエミレベル1活動における コスト削減効果	ゼロエミレベル2活動における コスト削減効果
国内	5億3千万円	8千6百万円
海外	1億3千万円	1億1千万円